彼方【かなた】

校長通信
H25.5.23
Vol.6

【「笑顔」満載の修学旅行を！】

修学旅行のしおりに次のような内容を書きました。

「学校教育目標『自主貢献』(自主的に判断・行動し、助け合う生徒）を目指す私たち湖北中学校の修学旅行は、どのようなイメージで取り組めばよいのでしょうか？学習の場所を古都、京都、奈良に移し、日本の古(いにしえ)を感じながら、日本人として生まれてきたことに対する誇りや幸福感を再確認して欲しいと願っています。相手を思いやることやものを大切にすること、自然や神に対する畏敬の念を抱くこと、そういった心を私たち日本人は昔から大切にしてきています。この修学旅行で、こういう思いを改めて感じてきて欲しいのです。そのためには、班で協力すること、みんなのために時間やルールを守ること、新幹線を降りるときに乗ったとき以上にきれいにすること、現地ガイドをしてくれる方に積極的に質問すること、ホテル内で気遣った過ごし方をすることなど、あらゆる場面で誰かを思いやり、誰かのためになることを意識した言動をとることです。自身の言動は、自分がどういう感情を持つかで決まります。二泊三日の旅行の中で仲間の笑顔が見たい、仲間を笑顔にしたいという気持ちが出てくれば、仲間を思いやる行動が取れます。京都や奈良で生活している人たちの笑顔を考えれば、訪れた先で周囲を気遣う言動ができます。本当に楽しいのは、自分も周囲も笑顔になることです。一生懸命取り組むことが周囲の笑顔をつくり、自分の笑顔もつくるのです。３年生になり一生懸命取り組む仲間が本当に増えてきました。それに伴って日常生活での笑顔も増えてきたように思います。皆さんはどう感じていますか？私たちの修学旅行は、自分たちの適切な判断の下で行動し、みんなで助け合わなければ目標を達成することはできません。「楽」を重ねてきた「楽しい」思い出は薄っぺらですが、大変な思いをしながらもみんなで楽しみ、勝ち取ったものは、自分たちに大きな感動を与えてくれます。本当に心の底から楽しめる笑顔満載の修学旅行にして欲しいと願っています！」

一日目の夜、実行委員会の反省で学年主任の羽場先生が一喝されました。実行委員の振り返りが「ダメなこともあったけどまあよかったです。」というあまりにも薄っぺらで、本気で取り組もうとする熱意がみんなに伝わってこなかったからです。羽場先生が「もう一度自分のクラスの部屋に声をかけて静かにさせてから集合しなさい。」と指示をされて、その後、実行委員が再集合しました。実行委員会の働きかけで、それまでのざわつきがなくなり、ホテル内にシーンとした空気が流れました。些細なことですが、みんなで取り組むことの大切さを実行委員が体感できた一コマだと思います。そして、このことがきっかけとなり、添乗員さんも「二日目からの実行委員の動きが数段進歩しましたね。」と驚くほど頑張りました。電車の中で席をさっと譲る生徒、ガイドさんへのお礼にとお菓子を差し出した生徒、笑顔で外国の方と話している生徒、同じ班の仲間に声をかけて頑張った班長、そして仲間を気遣い、一生懸命声をかけていた実行委員、沢山の生徒の良さや「笑顔」を見ることができました。次が楽しみです。